

令和元年度 県政世論調査結果

1 調査の概要

(1) 目的

次期香川県環境基本計画策定に関する基礎調査の一環として、県民の環境に対する評価や関心、環境問題に関する考え方及び環境配慮の取組状況などを把握することによって、本県の環境保全における課題や施策の方向を明らかにし、新たに計画に反映させるため、県民を対象としたアンケート調査を実施したものです。

(2) 調査方法

- ①調査地域 香川県全域
- ②調査対象 層化二段無作為抽出 3,000人(満18歳以上の県民)
- ③調査期間 令和元年5月27日～6月17日

(3) 環境施策についての調査項目

- ①環境に関する満足度・重要度
- ②環境に配慮した日常生活の行動
- ③行政に期待する取組み
 - ア 地球温暖化防止のための取組み
 - イ 森林整備と都市緑化のための取組み
 - ウ ごみの減量化・リサイクルの推進のための取組み
 - エ 生物多様性の保全のための取組み
 - オ 瀬戸内海の環境の保全のための取組み
- ④自由意見

(4) 回答結果

回答率 51.0% (回答者数: 1,530人)

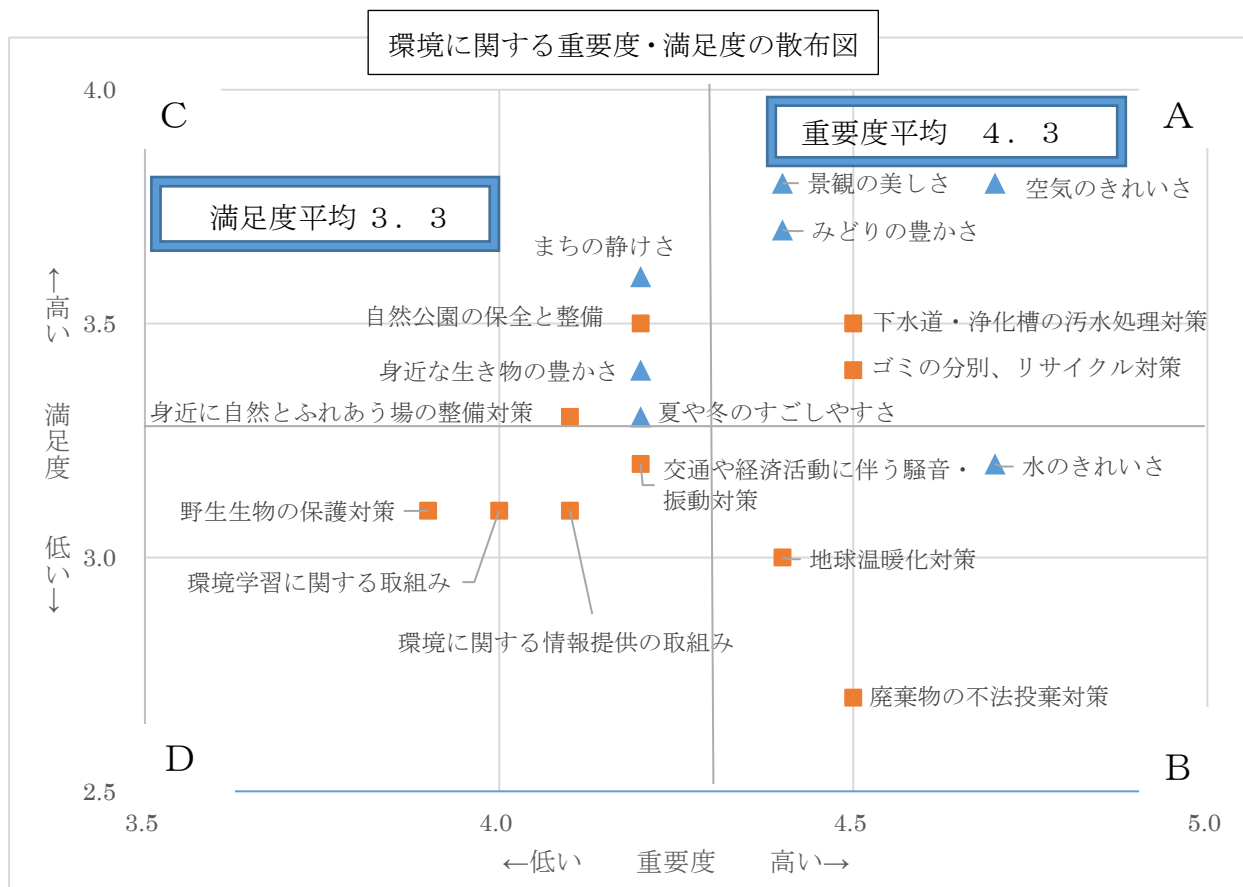
2 調査の結果

環境に関する重要度・満足度について

環境に関する重要度・満足度の結果は下の図のとおりです。

環境全般に対する県民の重要度の平均は4.3で、「まあ重要である」評価となっている一方、満足度の平均は3.3で、「どちらともいえない」評価となっています。

項目別にみていくと、満足度・重要度ともに高いのは『空気のきれいさ』『景観の美しさ』『みどりの豊かさ』等身のまわりの環境の項目が多く、満足度・重要度ともに低いのは、『野生生物の保護対策』『環境学習に関する取組み』『環境に関する情報提供の取組み』等行政の環境への取組みの項目が多い結果になっています。



▲は『身のまわりの環境』の満足度・重要度を、■『行政の環境への取組み』に対する満足度・重要度をそれぞれ表しています。また、満足度と重要度の平均ラインを入れています。

【平均値の算出】満足度・重要度それぞれの選択肢に得点を配分し、設問ごとに平均値を算出しています。

満足度	重要度	得点配分
満足している	とても重要である	5
やや満足している	まあ重要である	4
どちらともいえない	どちらともいえない	3
やや不満である	あまり重要でない	2
不満である	全く重要でない	1

満足度
平均値

$$= \frac{\text{「満足」} \times 5 + \text{「やや満足」} \times 4 + \text{「どちらともいえない」} \times 3 + \text{「やや不満」} \times 2 + \text{「不満」}}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

ゾーン		評価の趣旨	環境の区分
A	満足度：高い 重要度：高い	県民が現在の環境を維持し、行政の施策の推進・継続を求めているもの	空気のきれいさ 景観の美しさ みどりの豊かさ 下水道・浄化槽の汚水処理対策 ゴミの分別、リサイクル対策
B	満足度：低い 重要度：高い	県民が特に重要と考える環境分野や行政の施策を求めているもの	水のきれいさ 地球温暖化対策 廃棄物の不法投棄対策
C	満足度：高い 重要度：低い	県民が現在の環境や行政の施策が維持されることを求めているが、重要度は低いと考えているもの	まちの静けさ 自然公園の保全と整備 身近な生き物の豊かさ 夏や冬のすごしやすさ 身近に自然とふれあう場の整備対策
D	満足度：低い 重要度：低い	県民が行政の施策に対して満足しておらず、重要度が低いと考えているもの	交通や経済活動に伴う騒音・振動対策 環境に関する情報提供の取組み 環境学習に関する取組み 野生生物の保護対策

3 環境施策について

(1) 身のまわりの環境について<現在の満足度>

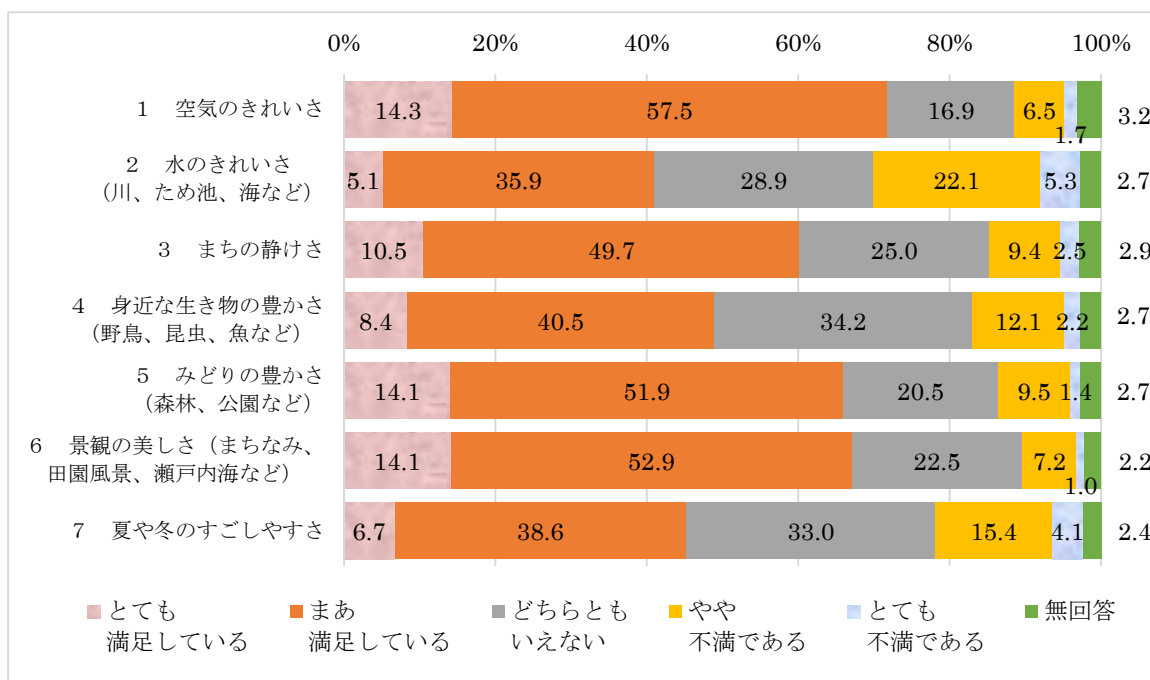
問10 あなたの身のまわりの環境について<現在の満足度>を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,530】

(単位:%)

項目	<現在の満足度>					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
1 空気のきれいさ	14.3	57.5	16.9	6.5	1.7	3.2
2 水のきれいさ (川、ため池、海など)	5.1	35.9	28.9	22.1	5.3	2.7
3 まちの静けさ	10.5	49.7	25.0	9.4	2.5	2.9
4 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	8.4	40.5	34.2	12.1	2.2	2.7
5 みどりの豊かさ (森林、公園など)	14.1	51.9	20.5	9.5	1.4	2.7
6 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	14.1	52.9	22.5	7.2	1.0	2.2
7 夏や冬の過ごしやすさ	6.7	38.6	33.0	15.4	4.1	2.4

身のまわりの環境について<現在の満足度>をみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「空気のきれいさ」71.8%が最も高く、次いで「景観の美しさ」67.0%、「みどりの豊かさ」66.0%などとなっている。



(2) 身のまわりの環境について<将来の重要度>

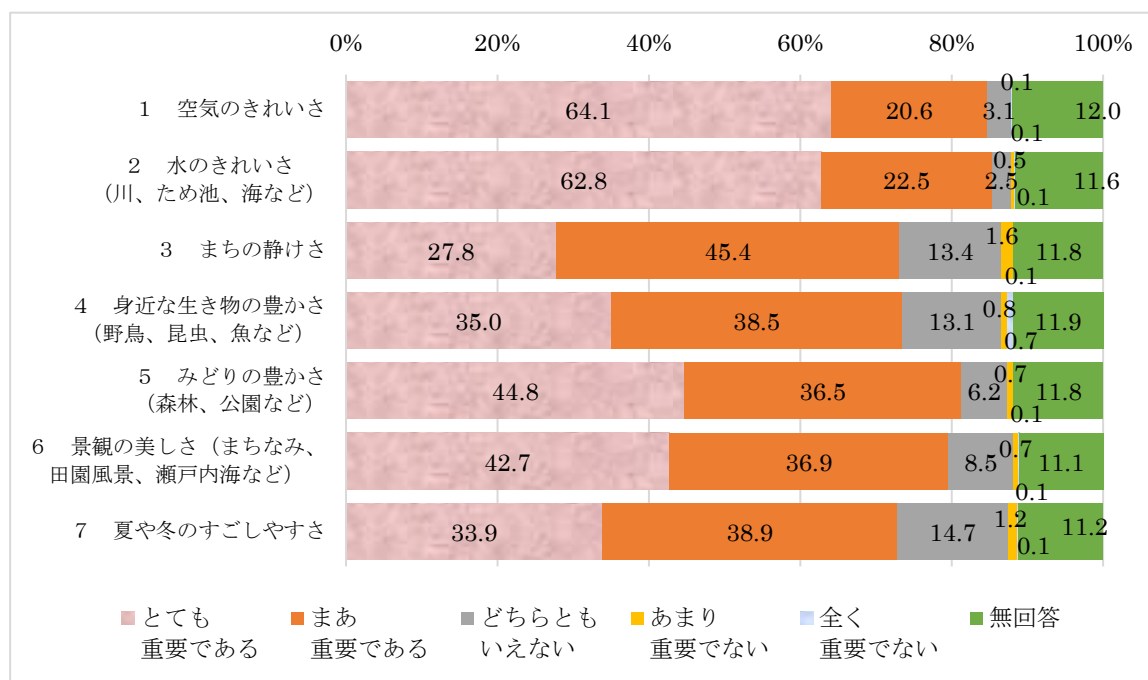
問10 あなたの身のまわりの環境について<将来の重要度>を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,530】

(単位:%)

項目	<将来の重要度>					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
1 空気のきれいさ	64.1	20.6	3.1	0.1	0.1	12.0
2 水のきれいさ (川、ため池、海など)	62.8	22.5	2.5	0.5	0.1	11.6
3 まちの静けさ	27.8	45.4	13.4	1.6	0.1	11.8
4 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	35.0	38.5	13.1	0.8	0.7	11.9
5 みどりの豊かさ (森林、公園など)	44.8	36.5	6.2	0.7	0.1	11.8
6 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	42.7	36.9	8.5	0.7	0.1	11.1
7 夏や冬の過ごしやすさ	33.9	38.9	14.7	1.2	0.1	11.2

身のまわりの環境について<将来の重要度>をみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「水のきれいさ」85.3%が最も高く、次いで「空気のきれいさ」84.7%、「みどりの豊かさ」81.3%などとなっている。



(3) 行政の環境への取組みについて〈現在の満足度〉

問10 行政の環境への取組みの〈現在の満足度〉について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

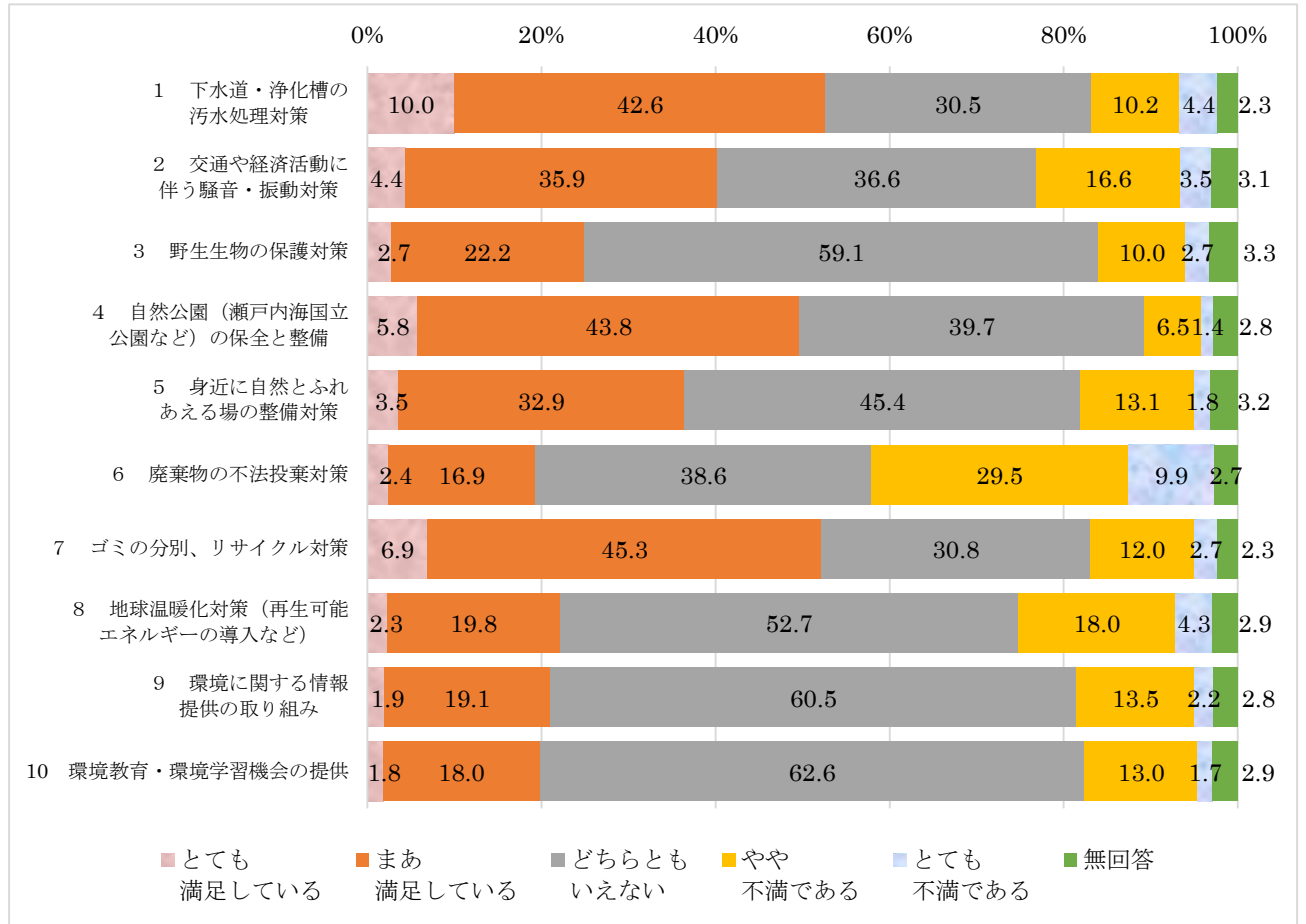
【回答者数=1,530】

(単位:%)

項 目	〈現在の満足度〉					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	10.0	42.6	30.5	10.2	4.4	2.3
2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	4.4	35.9	36.6	16.6	3.5	3.1
3 野生生物の保護対策	2.7	22.2	59.1	10.0	2.7	3.3
4 自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備	5.8	43.8	39.7	6.5	1.4	2.8
5 身近に自然とふれあえる場の整備対策	3.5	32.9	45.4	13.1	1.8	3.2
6 廃棄物の不法投棄対策	2.4	16.9	38.6	29.5	9.9	2.7
7 ゴミの分別、リサイクル対策	6.9	45.3	30.8	12.0	2.7	2.3
8 地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）	2.3	19.8	52.7	18.0	4.3	2.9
9 環境に関する情報提供の取組み	1.9	19.1	60.5	13.5	2.2	2.8
10 環境教育・環境学習機会の提供	1.8	18.0	62.6	13.0	1.7	2.9

行政の環境への取組みの〈現在の満足度〉について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「下水道・浄化槽の汚水処理対策」52.6%が最も高く、次いで「ゴミの分別、リサイクル対策」52.2%、「自然公園の保全と整備」49.6%などとなっている。

行政の環境への取組みについて〈現在の満足度〉



(4) 行政の環境への取組みについて<将来の重要度>

問10 行政の環境への取組みの<将来の重要度>について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

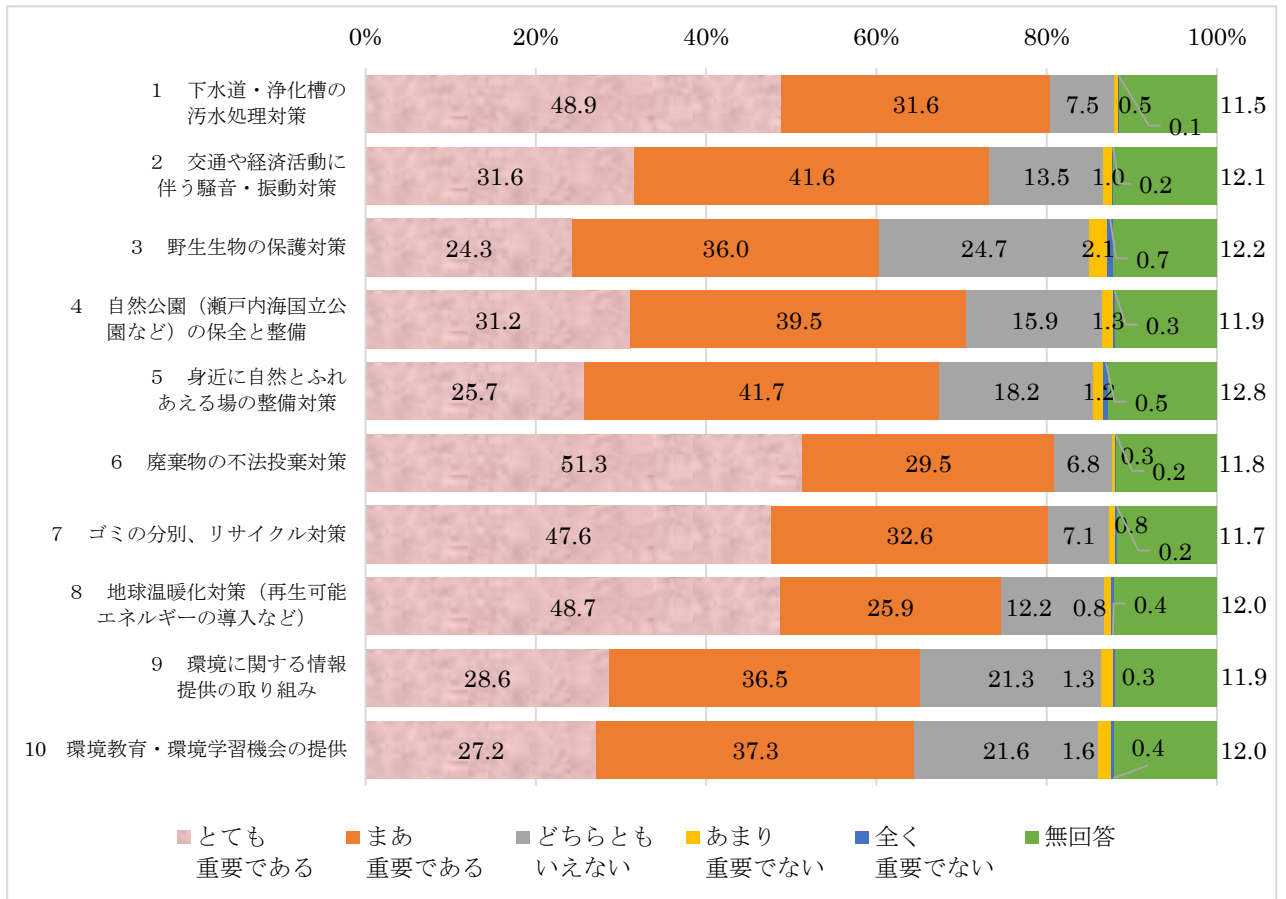
【回答者数=1,530】

(単位:%)

項目	<将来の重要度>					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	48.9	31.6	7.5	0.5	0.1	11.5
2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	31.6	41.6	13.5	1.0	0.2	12.1
3 野生生物の保護対策	24.3	36.0	24.7	2.1	0.7	12.2
4 自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備	31.2	39.5	15.9	1.3	0.3	11.9
5 身近に自然とふれあえる場の整備対策	25.7	41.7	18.2	1.2	0.5	12.8
6 廃棄物の不法投棄対策	51.3	29.5	6.8	0.3	0.2	11.8
7 ゴミの分別、リサイクル対策	47.6	32.6	7.1	0.8	0.2	11.7
8 地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）	48.7	25.9	12.2	0.8	0.4	12.0
9 環境に関する情報提供の取組み	28.6	36.5	21.3	1.3	0.3	11.9
10 環境教育・環境学習機会の提供	27.2	37.3	21.6	1.6	0.4	12.0

行政の環境への取組みの<将来の重要度>について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「廃棄物の不法投棄対策」80.8%が最も高く、次いで「下水道・浄化槽の汚水処理対策」80.5%、「ゴミの分別、リサイクル対策」80.2%などとなっている。

行政の環境への取組みについて〈将来の重要度〉



(5) 日常生活の中で環境に優しい行動をどの程度行っているか

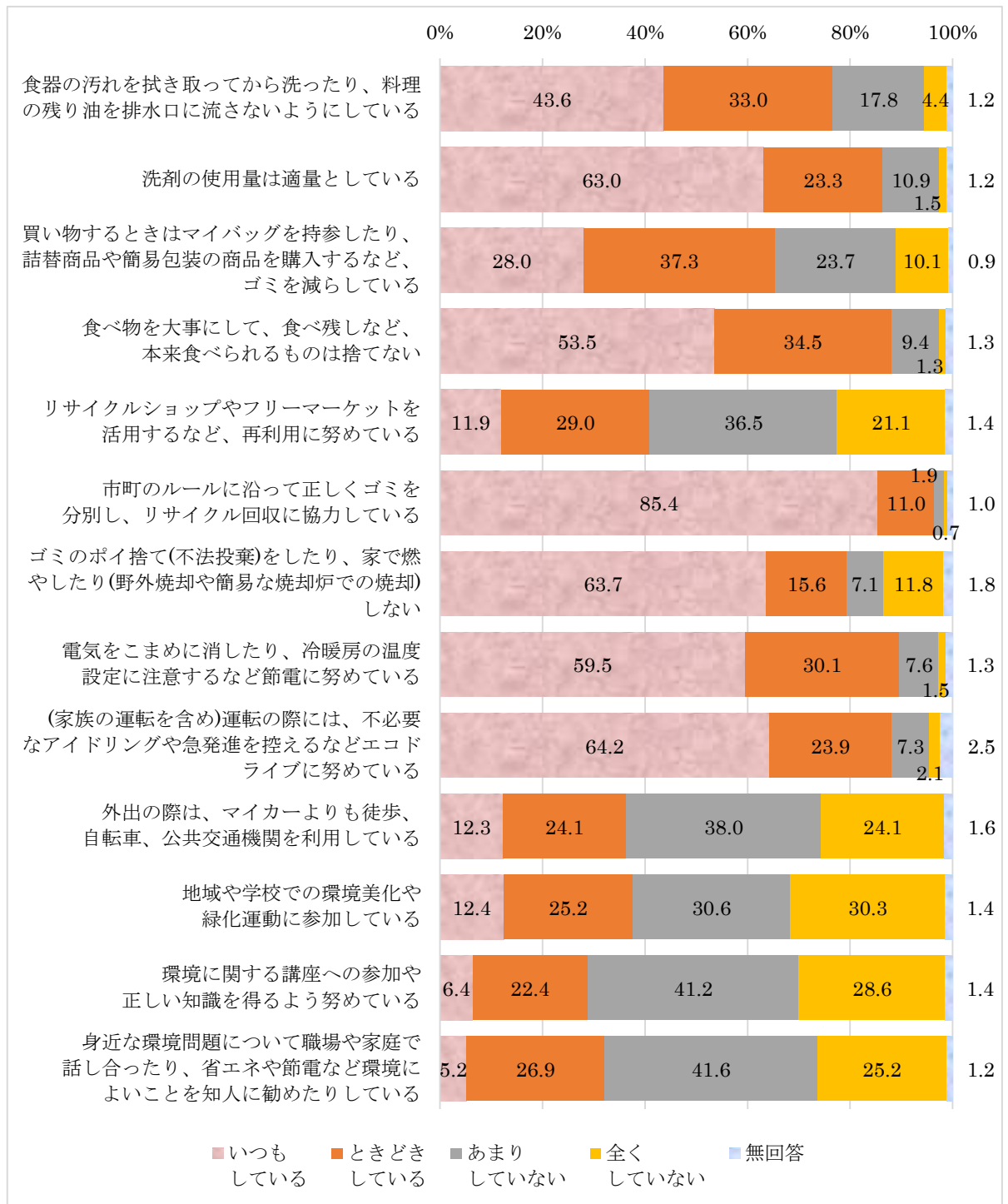
問11 あなたは日常生活の中で、どの程度、環境に優しい行動をしていますか。それぞれ1～4のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

【回答者数=1,530】

(単位:%)

項 目		＜取組み状況＞				
		①いつも している	②ときどき している	③あまり していない	④全く していない	無回答
水質汚濁の防止	1 食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている	43.6	33.0	17.8	4.4	1.2
	2 洗剤の使用量は適量としている	63.0	23.3	10.9	1.5	1.2
資源の有効利用・廃棄物の適正処理	1 買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている	28.0	37.3	23.7	10.1	0.9
	2 食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない	53.5	34.5	9.4	1.3	1.3
	3 リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている	11.9	29.0	36.5	21.1	1.4
	4 市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している	85.4	11.0	1.9	0.7	1.0
	5 ゴミのポイ捨て(不法投棄)をしたり、家で燃やしたり(野外焼却や簡易な焼却炉での焼却)しない	63.7	15.6	7.1	11.8	1.8
地球温暖化の防止	1 電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている	59.5	30.1	7.6	1.5	1.3
	2 (家族の運転を含め) 運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている	64.2	23.9	7.3	2.1	2.5
	3 外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している	12.3	24.1	38.0	24.1	1.6
環境保全活動	1 地域や学校での環境美化や緑化運動に参加している	12.4	25.2	30.6	30.3	1.4
	2 環境に関する講座への参加や正しい知識を得よう努めている	6.4	22.4	41.2	28.6	1.4
	3 身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている	5.2	26.9	41.6	25.2	1.2

環境に優しい行動への取組みについて、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、「市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している」96.4%が最も高く、次いで「電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている」89.6%、「(家族の運転を含め)運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている」88.1%、「食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない」88.0%、「洗剤の使用量は適量としている」86.3%などとなっている。



(6) 地球温暖化防止のための取り組みについて

問12 地球温暖化防止のための取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	再生可能エネルギー設備の導入促進	58.8%
2	省エネ・節電行動の一層の促進	51.2%
3	電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	50.2%
4	CO2(二酸化炭素)吸収源対策としての植栽や間伐など森林整備の推進	49.5%
5	地球温暖化に関するわかりやすい情報の提供	37.2%
6	地球温暖化防止に関する環境学習の充実	21.6%
7	その他	1.1%
	(無回答)	1.7%

地球温暖化防止のための取り組みについて、「再生可能エネルギー設備の導入促進」58.8%が最も高く、次いで「省エネ・節電行動の一層の促進」51.2%、「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」50.2%などとなっている。

地球温暖化防止のための取り組みについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 再生可能エネルギー設備の導入促進	58.8	900 人
(2) 省エネ・節電行動の一層の促進	51.2	783 人
(3) 電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	50.2	768 人
(4) CO2(二酸化炭素)吸収源対策としての植栽や間伐など森林整備の推進	49.5	757 人
(5) 地球温暖化に関するわかりやすい情報の提供	37.2	569 人
(6) 地球温暖化防止に関する環境学習の充実	21.6	330 人
(7) その他	1.1	17 人
無回答	1.7	26 人

グラフ単位:(%)

性別にみると、『男性』では「再生可能エネルギー設備の導入促進」62.5%が最も高く、『女性』では「省エネ・節電行動の一層の促進」56.0%が最も高くなっている。これに『男性』では「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」54.4%、『女性』では「再生可能エネルギー設備の導入促進」55.7%が続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「省エネ・節電行動の一層の促進」60.3%が最も高く、そのほかの年齢では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～7割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「省エネ・節電行動の一層の促進」57.0%が最も高く、そのほかの職業では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～6割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「省エネ・節電行動の一層の促進」が5割台で最も高く、そのほかの圏域では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～6割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「再生可能エネルギー設備の導入促進」、「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」が同率の60.4%で最も高く、そのほかの居住年数では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～6割台で最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
地球温暖化防止のための取り組みについて

		全体（人）	(1) の再生 導入可 能エネ ルギー 設備	(2) の省エ ネ・節 電行動 の一層	(3) 電気自 動車や 省エネ 設備の 導入促 進	(4) CO2（二 酸化炭 素）吸 収対策 として の植栽 や森林 整備の 推進	(5) 地球温 暖化に 関する 情報の 提供わ か	(6) 地球温 暖化防 止に関 する学 習の充 実	(7) その他	無回 答
【表の見方】 単位＝比率(%)										
全体		1,530	58.8	51.2	50.2	49.5	37.2	21.6	1.1	1.7
性別	男性	701	62.5	46.1	54.4	50.9	34.7	18.0	1.6	2.4
	女性	797	55.7	56.0	46.5	48.8	39.3	24.6	0.6	1.0
年齢別	18～19歳	14	71.4	64.3	64.3	50.0	14.3	21.4	-	-
	20～29歳	74	66.2	45.9	45.9	62.2	33.8	25.7	1.4	-
	30～39歳	162	60.5	44.4	58.6	55.6	21.6	24.7	1.9	2.5
	40～49歳	247	63.6	38.9	58.3	49.8	32.0	21.5	1.6	0.8
	50～59歳	249	57.4	47.8	54.2	50.2	32.5	21.3	1.2	0.4
	60～69歳	363	56.5	56.2	44.4	54.0	40.8	23.4	0.8	1.1
	70歳以上	390	56.4	60.3	44.9	40.8	47.7	17.7	0.5	3.6
職業別	農林漁業	86	62.8	55.8	51.2	44.2	44.2	16.3	1.2	1.2
	商工業、サービス業、 自由業など	202	56.9	50.0	50.5	55.9	34.2	21.8	1.0	1.5
	会社、商店、官公庁 などに勤務	632	60.8	47.0	54.9	52.4	30.7	22.2	1.4	0.9
	主婦・主夫	309	54.7	57.0	41.4	45.6	42.7	25.9	0.6	1.9
	無職	263	60.1	55.1	49.0	46.0	46.0	16.7	0.8	2.7
圏域別	高松圏域	746	61.4	48.8	52.5	52.5	35.8	23.1	0.5	1.2
	東讃圏域	142	61.3	56.3	47.9	38.7	41.5	19.0	0.7	1.4
	小豆圏域	39	53.8	56.4	38.5	53.8	51.3	12.8	-	2.6
	中讃圏域	398	55.3	50.0	46.5	51.3	37.4	21.6	1.5	2.3
	西讃圏域	205	55.6	57.6	52.7	41.5	36.1	19.5	2.9	2.4
居住年数別	3年未満	91	60.4	37.4	60.4	54.9	24.2	31.9	1.1	-
	3年以上～10年未満	199	62.3	42.7	57.8	49.2	31.2	20.1	1.5	2.0
	10年以上～20年未満	232	59.1	47.8	54.7	52.6	35.8	22.4	1.3	0.4
	20年以上	974	58.1	55.1	46.6	48.8	39.8	20.6	0.9	2.1

※網掛けは最も高い数値を示したもの

(7) 森林整備と都市緑化のための取り組みについて

問13 森林整備と都市緑化のための取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,530】 ※回答数の多い順に並び替え

1	間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	62.7%
2	手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	60.8%
3	森林整備の担い手の育成・確保	40.6%
4	都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	27.6%
5	公共施設などにおける県産木材の利用促進	19.1%
6	保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	18.2%
7	ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	16.5%
8	建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	14.4%
9	県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.6%
10	その他	0.4%
	（無回答）	2.5%

森林整備と都市緑化のための取り組みについて、「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」62.7%が最も高く、次いで「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」60.8%、「森林整備の担い手の育成・確保」40.6%などとなっている。

森林整備と都市緑化のための取り組みについて

	割合	回答数
全体	100.0	1,530人
(1) 間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	62.7	960人
(2) 手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	60.8	931人
(3) 森林整備の担い手の育成・確保	40.6	621人
(4) 都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	27.6	423人
(5) 公共施設などにおける県産木材の利用促進	19.1	292人
(6) 保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	18.2	278人
(7) ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	16.5	252人
(8) 建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	14.4	220人
(9) 県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.6	178人
(10) その他	0.4	6人
無回答	2.5	39人

グラフ単位：(%)

性別にみると、男女とも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、『男性』64.3%、『女性』61.0%で、これに「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が『男性』61.9%、『女性』60.4%で続いている。

年齢別にみると、『50～59歳』、『60～69歳』では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6割台で最も高く、そのほかの年齢では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が5～6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」、「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が同率の64.0%で高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6割台で最も高く、そのほかの職業では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割台で最も高く、そのほかの圏域では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が64.7%で最も高く、そのほかの居住年数では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が5～6割台で最も高くなっている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
森林整備と都市緑化のための取り組みについて**

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
	全体（人）	林間伐など森林の推進	備とや広源活用などの推進	保森林整備の担い手の育成・確保	切都市公園や森林公園などの適	材公共施設などにおける県産木材の利用促進	の適切な管理・保全	が保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）など	り加による県民総参加の森づく	え建物の屋上や壁面に植物を植	積産木材で作った製品の提供	その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)													
全体	1,530	62.7	60.8	40.6	27.6	19.1	18.2	16.5	14.4	11.6	0.4	2.5	
性別	男性	701	64.3	61.9	42.2	29.2	17.5	20.7	13.7	12.1	11.7	0.4	2.9
	女性	797	61.0	60.4	39.5	26.9	20.6	15.9	19.2	16.2	11.2	0.3	2.1
年齢別	18～19歳	14	57.1	50.0	50.0	28.6	21.4	14.3	21.4	28.6	7.1	-	7.1
	20～29歳	74	60.8	50.0	39.2	25.7	20.3	23.0	25.7	25.7	14.9	-	-
	30～39歳	162	60.5	48.1	38.9	30.9	17.3	17.3	16.0	26.5	12.3	-	2.5
	40～49歳	247	59.1	57.5	44.5	29.6	17.0	17.0	14.2	19.0	8.5	0.8	1.2
	50～59歳	249	59.4	60.2	44.6	29.3	16.5	21.7	17.3	12.4	10.0	-	0.8
	60～69歳	363	63.9	68.6	38.6	26.7	18.2	17.1	19.3	10.5	12.7	0.6	2.5
	70歳以上	390	66.7	64.6	38.7	26.4	23.6	17.2	13.6	8.2	12.1	0.3	4.9
職業別	農林漁業	86	64.0	64.0	33.7	24.4	25.6	25.6	14.0	9.3	17.4	-	1.2
	商工業、サービス業、自由業など	202	60.4	61.9	43.1	22.8	21.3	19.8	18.3	16.3	9.4	-	4.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	61.2	59.3	41.9	30.5	15.8	18.7	15.2	17.7	10.8	0.5	1.6
	主婦・主夫	309	64.1	63.1	40.8	24.9	19.7	12.3	19.4	12.9	11.0	0.3	2.3
	無職	263	65.4	62.4	39.5	30.8	22.4	20.2	16.3	7.6	13.3	0.4	3.4
圏域別	高松圏域	746	64.1	58.8	40.1	30.4	19.3	18.5	17.4	15.7	11.3	0.3	1.5
	東讃圏域	142	62.7	66.2	36.6	23.9	17.6	17.6	16.2	10.6	13.4	-	4.9
	小豆圏域	39	53.8	64.1	41.0	25.6	15.4	25.6	15.4	15.4	-	-	7.7
	中讃圏域	398	61.3	59.3	41.5	26.4	18.8	16.1	17.3	14.6	12.6	0.5	3.5
	西讃圏域	205	62.4	66.8	43.4	22.9	20.5	20.0	11.7	11.7	12.2	1.0	2.0
居住年数別	3年未満	91	60.4	57.1	37.4	30.8	17.6	19.8	18.7	22.0	8.8	-	-
	3年以上～10年未満	199	57.8	52.8	39.7	33.7	18.1	17.6	18.1	20.1	10.6	0.5	3.0
	10年以上～20年未満	232	61.2	54.7	43.1	25.9	18.1	18.5	17.2	19.8	13.4	1.3	1.3
	20年以上	974	64.0	64.7	40.9	27.0	19.7	18.1	16.0	11.0	11.4	0.1	2.9

※網掛けは最も高い数値を示したもの

(8)ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

問14 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み	60.3%
2	スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	40.7%
3	学校や地域における環境学習の充実	36.0%
4	不法投棄の監視・通報体制の充実	32.5%
5	市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し (可燃ごみから資源ごみへの変更など)	32.1%
6	広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	27.9%
7	デポジット制度の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	21.3%
8	地域による環境美化(クリーン作戦など)	18.3%
9	その他	1.3%
	(無回答)	1.9%

ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」60.3%が最も高く、次いで「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」40.7%、「学校や地域における環境学習の充実」36.0%などとなっている。

ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

		回答数
全体	100.0	1,530人
(1) ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み	60.3	923人
(2) スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	40.7	622人
(3) 学校や地域における環境学習の充実	36.0	551人
(4) 不法投棄の監視・通報体制の充実	32.5	497人
(5) 市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し (可燃ごみから資源ごみへの変更など)	32.1	491人
(6) 広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	27.9	427人
(7) デポジット制度の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	21.3	326人
(8) 地域による環境美化(クリーン作戦など)	18.3	280人
(9) その他	1.3	20人
無回答	1.9	29人

グラフ単位:(%)

性別にみると、男女とも「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が最も高く、『男性』59.5%、『女性』61.6%で、これに『男性』では「学校や地域における環境学習の充実」36.5%、『女性』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」46.0%で続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率の50.0%で高く、そのほかの年齢では「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5～6割台と最も高く、これに『20～29歳』、『60歳以上』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が、そのほかの年齢では「学校や地域における環境学習の充実」が続いている。

職業別にみると、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5～6割台と最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校や地域における環境学習の充実」が、そのほかの職業では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

圏域別にみると、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5～6割台と最も高く、これに「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が3～4割台で続いている。

居住年数別にみると、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5～6割台と最も高く、これに『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「学校や地域における環境学習の充実」が、そのほかの居住年数別では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて**

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
【表の見方】 単位＝比率(%)		り物ごみの削減などに重点化した取	協ス力呼びかけの買物袋持参の簡素化	の学校や地域における環境学習	不法投棄の監視・通報体制の充実	源方法の直直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)	市町での分別方法や処理	意識啓発や情報提供の強化	産者による積極的資源回収の推進	地域による環境美化(クリーン作戦など)	その他	無回答
全体	全体(人)	1,530	60.3	40.7	36.0	32.5	32.1	27.9	21.3	18.3	1.3	1.9
性別	男性	701	59.5	34.1	36.5	35.4	31.5	30.8	20.5	18.8	1.3	2.6
	女性	797	61.6	46.0	35.5	29.5	32.9	25.5	22.0	17.9	1.4	1.1
年齢別	18～19歳	14	50.0	50.0	42.9	28.6	21.4	28.6	28.6	14.3	-	-
	20～29歳	74	54.1	45.9	36.5	27.0	25.7	21.6	33.8	27.0	1.4	-
	30～39歳	162	57.4	42.0	51.2	35.2	24.7	20.4	21.6	15.4	0.6	1.9
	40～49歳	247	64.0	36.0	40.1	34.8	28.7	23.5	25.9	10.9	2.8	1.2
	50～59歳	249	58.2	32.9	38.6	33.7	31.3	29.7	24.1	13.7	1.6	-
	60～69歳	363	59.8	42.1	32.5	32.5	38.0	28.9	17.6	22.0	1.4	1.4
	70歳以上	390	63.6	44.4	28.2	29.2	34.6	33.1	17.2	22.3	0.5	4.1
職業別	農林漁業	86	62.8	40.7	29.1	33.7	41.9	37.2	17.4	14.0	2.3	1.2
	商工業、サービス業、自由業など	202	61.9	37.1	40.6	35.6	34.2	19.3	21.3	19.3	1.5	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	60.1	37.7	39.4	33.1	30.9	28.3	22.2	16.1	1.7	0.8
	主婦・主夫	309	57.9	49.2	35.3	27.5	31.1	25.6	21.0	20.4	1.0	1.6
	無職	263	63.9	39.5	28.1	32.7	32.3	33.8	21.3	22.1	0.4	3.4
圏域別	高松圏域	746	61.9	39.5	36.2	34.6	31.6	28.3	21.6	19.3	0.8	1.6
	東讃圏域	142	62.7	38.7	30.3	28.9	32.4	29.6	21.8	21.1	2.1	1.4
	小豆圏域	39	51.3	48.7	41.0	35.9	28.2	20.5	25.6	12.8	2.6	2.6
	中讃圏域	398	60.3	40.7	38.7	31.4	29.4	26.9	21.1	15.1	1.5	2.5
	西讃圏域	205	54.6	44.4	33.2	28.8	39.5	28.8	19.5	20.0	2.0	2.0
居住年数別	3年未満	91	63.7	40.7	41.8	28.6	26.4	24.2	31.9	16.5	1.1	-
	3年以上～10年未満	199	57.3	42.7	43.2	36.7	23.1	23.1	24.1	13.1	3.5	1.5
	10年以上～20年未満	232	59.9	42.2	38.8	31.9	30.2	25.0	23.7	17.7	0.9	0.9
	20年以上	974	61.2	39.5	33.3	31.7	35.2	30.1	19.2	19.8	1.0	2.3

※網掛けは最も高い数値を示したもの

(9) 生物多様性の保全の取り組みについて

問15 生物多様性の保全の取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,530】 ※回答数の多い順に並び替え

1 身近な自然（里地・里山・里海）の保全	69.4%
2 農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.3%
3 絶滅のおそれのある野生動植物の保護	46.7%
4 アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	44.8%
5 自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.5%
6 生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	16.5%
7 その他	0.5%
(無回答)	2.4%

生物多様性の保全の取り組みについて、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」69.4%が最も高く、次いで「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」67.3%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」46.7%などとなっている。

生物多様性の保全の取り組みについて

	回答数
全体	100.0 1,530 人
(1) 身近な自然(里地・里山・里海)の保全	69.4 1,062 人
(2) 農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.3 1,029 人
(3) 絶滅のおそれのある野生動植物の保護	46.7 715 人
(4) アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	44.8 686 人
(5) 自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.5 268 人
(6) 生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	16.5 252 人
(7) その他	0.5 8 人
無回答	2.4 36 人

グラフ単位：(%)

性別にみると、『男性』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」、「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が同率の 69.3%で高く、『女性』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」69.6%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『20～29 歳』では「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」70.3%が最も高く、『70 歳以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」76.7%が最も高く、そのほかの年齢では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が 6～7 割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が 6～7 割台で最も高く、そのほかの職業では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が 6～8 割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が 7 割台で最も高く、そのほかの圏域では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が 6～7 割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20 年以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切管理」が 71.1%で最も高く、そのほかの居住年数では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が 6～7 割台で最も高くなっている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
生物多様性の保全の取り組みについて**

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)		
【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）	海身近な自然（里地・里山・里	な農業被害を発生させるイノシシ	の絶滅のおそれのある野生動物	外生態系や人間生活に影響を与える生	発活動	自然観察会など生物多様性の普及啓	て生物多様性に関する活動を行っ	その他	無回答
全体		1,530	69.4	67.3	46.7	44.8	17.5	16.5	0.5	2.4	
性別	男性	701	69.3	69.3	48.1	47.4	18.1	12.4	0.7	2.1	
	女性	797	69.6	65.2	45.3	42.9	17.1	20.5	0.4	2.4	
年齢別	18～19歳	14	64.3	42.9	50.0	42.9	14.3	14.3	-	7.1	
	20～29歳	74	60.8	67.6	70.3	37.8	13.5	21.6	-	-	
	30～39歳	162	71.0	57.4	61.7	41.4	14.8	12.3	0.6	2.5	
	40～49歳	247	70.4	57.5	51.4	42.1	19.0	18.6	1.2	0.4	
	50～59歳	249	70.3	61.8	49.8	47.4	18.5	13.7	0.4	0.4	
	60～69歳	363	74.1	72.2	38.0	43.3	19.3	17.4	0.8	1.9	
	70歳以上	390	65.1	76.7	38.5	49.7	16.4	17.7	-	5.4	
職業別	農林漁業	86	70.9	87.2	31.4	57.0	12.8	9.3	1.2	2.3	
	商工業、サービス業、自由業など	202	66.3	61.4	54.5	40.6	20.3	21.8	1.0	2.5	
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	70.9	63.8	50.8	45.7	17.4	14.6	0.8	0.9	
	主婦・主夫	309	70.6	70.9	37.9	43.4	16.2	19.4	-	3.6	
	無職	263	67.7	69.6	45.2	45.2	19.4	17.1	-	3.0	
圏域別	高松圏域	746	71.6	64.9	50.0	44.5	18.5	17.3	0.5	1.6	
	東讃圏域	142	57.0	76.8	44.4	47.2	15.5	19.0	-	2.8	
	小豆圏域	39	74.4	76.9	38.5	53.8	10.3	10.3	-	2.6	
	中讃圏域	398	67.6	64.8	46.0	40.2	18.8	17.1	0.5	3.5	
	西讃圏域	205	72.7	72.2	39.5	51.7	14.1	11.7	1.0	2.4	
居住年数別	3年未満	91	70.3	59.3	56.0	42.9	17.6	17.6	-	-	
	3年以上～10年未満	199	67.8	57.3	53.8	42.2	16.6	19.1	0.5	2.5	
	10年以上～20年未満	232	71.1	62.5	49.6	44.8	16.8	16.4	0.9	0.9	
	20年以上	974	69.3	71.1	43.4	45.9	18.0	16.1	0.5	2.8	

※網掛けは最も高い数値を示したもの

(10)瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

問16 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）	66.8%
2	沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	48.8%
3	自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）	48.4%
4	瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	31.2%
5	持続可能な水産資源の維持・管理の推進	25.3%
6	水質などの監視測定や調査研究	22.9%
7	健全な物質（栄養塩など）の循環機能の維持・回復	11.0%
8	環境学習の推進	8.5%
9	情報提供、広報の充実	5.5%
10	その他	0.6%
	（無回答）	2.7%

瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」66.8%が最も高く、次いで「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」48.8%、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」48.4%などとなっている。

瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

	回答数
全体	100.0 1,530人
(1) 水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）	66.8 1,022人
(2) 沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	48.8 746人
(3) 自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）	48.4 740人
(4) 瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	31.2 478人
(5) 持続可能な水産資源の維持・管理の推進	25.3 387人
(6) 水質などの監視測定や調査研究	22.9 351人
(7) 健全な物質（栄養塩など）の循環機能の維持・回復	11.0 169人
(8) 環境学習の推進	8.5 130人
(9) 情報提供、広報の充実	5.5 84人
(10) その他	0.6 9人
無回答	2.7 42人

グラフ単位：(%)

性別にみると、男女とも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が最も高く、『男性』65.8%、『女性』67.6%で、これに『男性』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」54.5%、『女性』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」50.7%で続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が同率の57.1%で高く、そのほかの年齢では「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6～7割台と最も高く、これに『60歳以上』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が、そのほかの年齢では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が続いている。

職業別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6～7割台と最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が、そのほかの職業では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6割台で最も高く、これに『高松圏域』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が、『東讃圏域』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が同率で、そのほかの圏域では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6割台で最も高く、これに、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が、そのほかの居住年数では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

**性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別
瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて**

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		化学物質の規制、下水処理場の整備、産業排水の対策など	自然海岸の環境（藻場・干潟・生・創出）	全（自然公園・緑地・史跡の保全）	の瀬戸内海に面した府県など	管理の可能な水産資源の維持・	究水質などの監視測定や調査研	健全な物質（栄養塩など）の循環機能の維持・回復	環境学習の推進	情報提供、広報の充実	その他	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)		全体（人）											
全体		1,530	66.8	48.8	48.4	31.2	25.3	22.9	11.0	8.5	5.5	0.6	2.7
性別	男性	701	65.8	54.5	45.9	32.2	28.7	21.4	11.3	6.4	5.0	0.7	2.4
	女性	797	67.6	44.4	50.7	30.2	22.3	24.3	10.7	10.3	5.9	0.5	2.8
年齢別	18～19歳	14	57.1	50.0	57.1	21.4	21.4	35.7	14.3	-	7.1	-	7.1
	20～29歳	74	73.0	55.4	50.0	29.7	29.7	18.9	12.2	6.8	1.4	-	-
	30～39歳	162	66.7	47.5	44.4	28.4	25.3	23.5	15.4	8.0	6.8	0.6	3.1
	40～49歳	247	68.0	49.4	45.7	27.5	25.1	27.1	10.9	10.1	4.0	0.4	0.4
	50～59歳	249	66.7	53.0	47.4	31.3	25.7	21.3	11.2	6.8	5.2	0.4	0.4
	60～69歳	363	65.8	51.0	51.8	33.3	23.1	20.4	10.7	9.4	5.8	1.4	2.2
	70歳以上	390	65.9	44.1	48.7	33.1	26.4	23.8	8.7	8.5	6.4	0.3	6.2
職業別	農林漁業	86	72.1	48.8	51.2	34.9	30.2	17.4	8.1	8.1	5.8	1.2	2.3
	商工業、サービス業、自由業など	202	65.3	52.5	49.5	32.7	24.3	21.8	14.4	6.9	5.0	-	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	66.8	52.1	47.3	28.8	26.6	23.9	11.1	9.0	4.3	0.5	1.4
	主婦・主夫	309	67.0	42.4	49.2	33.3	20.4	24.9	8.7	9.4	8.4	1.0	3.2
	無職	263	66.5	47.5	49.0	32.3	27.8	21.7	11.8	7.6	4.9	0.8	4.2
圏域別	高松圏域	746	67.8	47.6	48.9	32.6	26.0	23.6	10.7	9.0	5.0	0.5	2.5
	東讃圏域	142	68.3	47.2	47.2	26.1	31.0	20.4	14.1	7.7	4.2	0.7	2.1
	小豆圏域	39	66.7	59.0	43.6	28.2	23.1	17.9	15.4	7.7	10.3	2.6	-
	中讃圏域	398	63.8	48.0	47.2	31.9	23.4	25.1	10.3	9.0	6.5	0.5	3.0
	西讃圏域	205	67.8	53.7	50.2	29.3	22.9	19.0	10.7	6.3	5.4	0.5	3.9
居住年数別	3年未満	91	68.1	49.5	46.2	26.4	26.4	30.8	14.3	13.2	4.4	-	-
	3年以上～10年未満	199	68.8	47.7	37.7	29.1	24.6	23.6	13.1	11.1	6.0	-	3.0
	10年以上～20年未満	232	65.1	46.1	50.9	31.5	28.0	26.3	9.1	8.6	5.2	1.3	1.7
	20年以上	974	66.7	50.1	50.3	31.9	24.6	21.4	10.7	7.5	5.4	0.6	3.0

※網掛けは最も高い数値を示したもの